

2022 年度

# 事 業 計 画

学校法人 千 葉 学 園

千 葉 商 科 大 学  
千 葉 商 科 大 学 付 属 高 等 学 校

## 【目次】

はじめに	・・・	P 1
第2期中期経営計画（2019-2023年度）の戦略目標　－　「IST戦略」	・・・	P 2

---

### <2022年度学校法人千葉学園の主な事業計画>

I. 教育・研究・社会連携領域	・・・	P 3
II. 学生支援と環境整備領域	・・・	P 6
III. 研究支援と環境整備領域	・・・	P 8
IV. 入試・キャリア領域	・・・	P 9
V. 広報・ブランディング領域	・・・	P 10
VI. 経営基盤領域	・・・	P 12
VII. 附属高校領域	・・・	P 13
VIII. 高大連携領域	・・・	P 15
IX. 施設・設備計画	・・・	P 16

---

## 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症の発生から2年以上が経過したにも関わらず、世界各地で今もなお感染の波が周期的に続いています。その状況下において、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が勃発し、全世界を巻き込んだ政治・経済の混迷、世界中の人々の動揺や社会不安が渦巻いており、日本国内でも私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしています。

このように変化が激しく先行きの見通せない混沌とした社会情勢が続く中、他方 Society5.0 の時代が到来しつつある現代において、個人や社会の『ウェルビーイング (Well-being)』の実現に向けて、教育機関が果たす役割はますます増大しています。

政府では、経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針 2021）において、日本の未来を拓く4つの原動力として、グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策を掲げています。文部科学省はこの方針を踏まえた政策を立案し、新たな付加価値創出と様々な社会課題の解決を教育・研究機関である大学に期待しています。

このような情勢の中、本学園では過年度から進めている第2期中期経営計画（2019-2023）による改革を進めています。

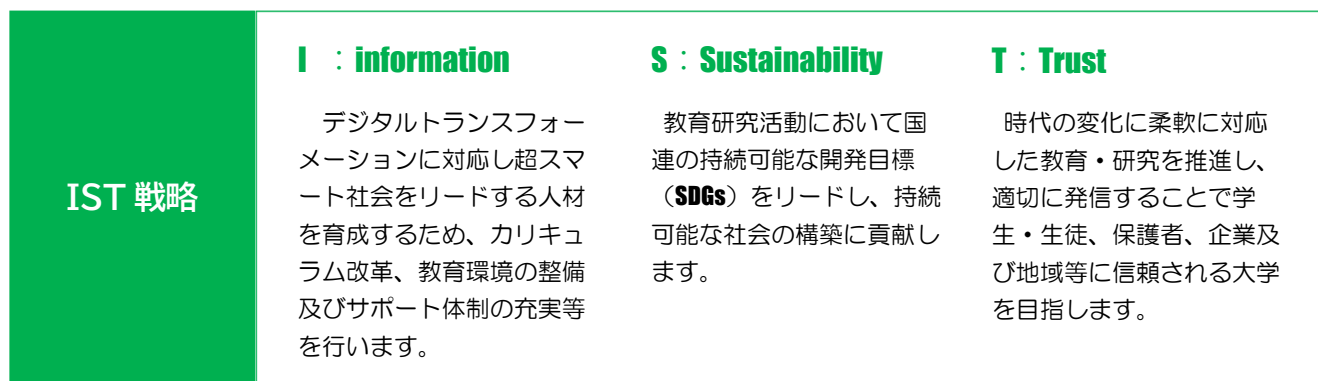
千葉商科大学では、2021年12月に理事会から経営改革本部宛に「学部・学科及び定員の見直し等に関する検討について」とする第3次諮問が提出されました。これまでの議論に加え、改めて「社会科学の総合大学」として発展し続けるための第1ステップとして、10年後のあるべき姿を念頭に既存の学部・学科組織の枠組みにとらわれず全学的な議論を行って答申を取り纏め、スピード感をもってその実現に取り組んでいきます。

付属高等学校では、本年度からいよいよ新教育課程（新コース・クラス）がスタートします。さらに新校舎の第二期建設工事が完了し、2023年1月から新しい校舎での学びが開始されるなど、付属高等学校の歴史に新たな1ページを刻む重要な1年となります。大学と付属高等学校のシナジー効果によりそれぞれの特長・特色を活かした高大一体化教育の向上を図り、学園全体の社会的評価の向上を図っていきます。

以上のように、2022年度事業計画は第2期中期経営計画をベースに各領域の取り組みを有機的に連携させながら進めていきます。

## 第2期中期経営計画（2019-2023年度）の戦略目標 — 「IST 戦略」

「CUC Vision 100」に向けた15年間の中心にあたる第2期中期経営計画は、教育力・研究力・学生支援体制を強化するための重点施策を「IST 戦略」として掲げます。



### 【第2期中期経営計画 8つの領域】

- |                  |                 |              |
|------------------|-----------------|--------------|
| I. 教育・研究・社会連携領域  | IV. 入試・キャリア領域   | VII. 附属高校領域  |
| II. 学生支援と環境整備領域  | V. 広報・ブランディング領域 | VIII. 高大連携領域 |
| III. 研究支援と環境整備領域 | VI. 経営基盤領域      |              |

【図1】 第2期中期経営計画「IST 戦略」全体概要

## 本学園の方向性＝サステナビリティ経営への転換

18歳人口の急減、AI、IT革命による所得・資産格差の拡大と、それによる労働市場及び修学動機の変化、新型コロナウイルスの影響による経済環境の悪化など、本学園を取り巻く環境は劇的に変化している。このような環境において、本学園が永続・発展し続けるため、「サステナビリティ経営への転換」が必要不可欠である。

### 【サステナビリティ経営への転換の方向性】

- ① 安定して黒字が出る財務構造へ
- ② 損益分岐点が低く、教育価値を効率的に生み出せる組織へ
- ③ 環境の変化に対応した教育環境へ

【図2】 サステナビリティ経営への転換の方向性

## I. 教育・研究・社会連携領域

### A：超スマート社会で活躍しリードする人材を輩出するため、千葉商科大学ならではの特色ある教育の実現

#### 1. 超スマート社会で活躍できる能力・スキルを伸長するための科目・講座を設置

##### <主なアクションプラン>

##### ①CUC 基盤教育科目群において ICT に関する資格の取得に向けた科目、講座の配置

超スマート社会で必要とされる能力・スキルについて、千葉商科大学の学生としての能力スタンダードを策定します。現在ターゲットを PC 操作及び情報リテラシー、情報倫理・情報セキュリティ、アカデミックリテラシー、データ分析・活用、統計基礎、会計の ICT 化、アルゴリズム、プログラミング、論理的思考力、商業実務（IT パスポート試験マネジメント、ストラテジ分野）と想定しています。

また、2022 年 1 月に開設した「資格取得支援センター」の中で、基本情報技術者、IT パスポート、マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) の講座を開講し、学生の情報系資格の取得をサポートします。

##### ②データを分析し活用するための知識・スキルの修得のためのプログラム構築

次期カリキュラム改定に向け、千葉商科大学の学生として身に付けるべきスタンダードな能力の修得状況等について、測定等を行います。また、「CUC 基盤教育科目群」の情報科目において、データ分析・活用に関する知識やスキルの修得を目的とした内容を組み込んだ授業を検討するとともに、各学部の科目においても、データ活用（企業等の実データ活用など含む）を組み込んだ授業の展開を検討します。

#### 2. 教育ツール・教育手法としての IT 活用

##### <主なアクションプラン>

##### ①情報端末を用いた授業及びアクティブラーニングを実施しやすい教育環境設備の整備

2020 年度入学者より開始した PC 必携化に対応する無線 LAN 環境、プリンターシステムの整備を継続します。また、キャンパスグランドデザイン策定に向け、今後求められる ICT 教育及び ICT 環境について、議論を進めます。

##### ②PC 必携化への対応として、入学前から入学時点での問合せ・相談などに対するサポート体制の整備

千葉商科大学の PC 必携化に対応するため、相談窓口を学内および公式 web サイト上に設置します。また、必携 PC に関するマニュアルの作成と配布、説明会、講習会等を実施します。

### B：SDGs を理解し、推進できる人材の育成

#### 1. SDGs 教育の実施

##### <主なアクションプラン>

##### ①SDGs 教育研究所の設置

2021 年度に検討した、既存の研究所を含めた研究所の在り方や方向性を踏まえ、SDGs 教育の強化のため、SDGs 教育研究所の具体的な設置の検討を行います。

##### ②SDGs 教育プログラムの開発

高大連携プログラムとして、2019 年度から千葉商科大学附属高校の「総合的な探究の時間」にて展開している、SDGs をテーマとした探究学習の授業を、2022 年度も継続して実施します。

また、2021 年度より実施している全学部生対象の特別プログラム「SDGs まるわかりプロジェクト」を継続して実施します。さらに、千葉商科大学の

学部・学科等再編と合わせ、SDGs に関連する新設科目や新規教育プログラムの検討を進めます。

## 2. 創設者・遠藤隆吉研究の推進

### <主なアクションプラン>

#### ①建学の精神の浸透

千葉商科大学基盤教育機構を活用した全学共通の教育として、「実学への招待」を継続して実施し、建学の精神の浸透を図ります。

#### ②遠藤隆吉研究所の設置

2021 年度に検討した既存の研究所を含めた研究所の在り方や方向性を踏まえ、遠藤隆吉研究所の具体的な設置の検討を行います。

## 3. 学長プロジェクトの推進

学長が掲げる次の 4 つのプロジェクトを推進し、第 2 期学長プロジェクトとして全学を挙げて取り組みを継続します。

### <主なアクションプラン>

- ①【プロジェクトⅠ】会計学の新展開
- ②【プロジェクトⅡ】CSR 研究と普及啓発
- ③【プロジェクトⅢ】安全・安心な都市・地域づくり(Resilience)
- ④【プロジェクトⅣ】環境・エネルギー(Sustainability)

## C：教育の質を保証する大学へ

### 1. 教育の質保証体制の整備

#### <主なアクションプラン>

#### ①学修成果の可視化に取り組み、卒業時に学びの成果を語る事ができる学生の育成

学修成果（主として 6 つの能力要素の修得）の可視化に向け、これまでも実施している卒業時アンケートのほか、ルーブリック<sup>i</sup>に基づく学修成果の自己評価の取り組みの実施、学修ポートフォリオシステムの活用による 6 つの能力要素のレ

ーダーチャート化等についても検討・実施します。

#### ②学修基礎力の育成

2021 年度の取り組み結果の検証により、学修基礎力育成の充実を図ります。特に正課授業については、既存の授業（初年次ゼミ、文章表現など）での学修基礎力の育成に向けた指導の実施、及び次期カリキュラム改定に向けた学修基礎力の育成のためのカリキュラム・授業の準備を行います。

また正課外においては、学修基礎力の育成に資する外部検定の活用等について、検討を開始します。さらに、2021 年度に引き続き、ラーニングコモンズを活用した学修基礎力の育成、学修基礎力の育成に資する外部検定等の推奨や、時事ワークシートの活用などを行います。

#### ③全学横断的なアクティブラーニングの運営体制の整備

千葉県内プロスポーツ 4 球団（野球、サッカー、バスケットボール、アメリカンフットボール）と提携している千葉商科大学独自の特長的な教育プログラムを通じて、全学横断的なアクティブラーニングの管理運営体制を整備します。特に、ビジネス社会で活躍できる学生の育成を目指し、講義だけでなく、各球団のホームゲーム等で実践的な学びに取り組みます。

#### ④教員の教育力向上・授業改善を目的とした研修体系の強化

「専任教員の能力向上の目標・方針及び専任教員に求める資質・能力」に基づき、階層別研修、学外の研修参加（オンラインを含む）、授業改善のための教授方法、カリキュラムマネジメント等の研修を強化します。

<sup>i</sup> 評価水準を示す「尺度」と、各段階の尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される、学習を評価する際の基準の様式。どのような内容が習得されていればその尺度に達しているかの判

断ができるよう、各尺度の説明は記述形式で表される。そのため、定量的に表しにくい、パフォーマンスの評価等、定性的なものとの評価の際に活用される。

## 2. 成績及び学修意欲の高い学生が満足する教育の提供

### <主なアクションプラン>

#### ①学修意欲の高い学生を対象とした教育プログラムの実現

これまでの取り組みの成果検証（全学・学部独自）を行い、入学者層の変化を踏まえた教育プログラムを検討します。また、瑞穂会<sup>ii</sup>での公認会計士、税理士養成を継続します。

## 3. 高大接続改革を見据えた大学教育改革

### <主なアクションプラン>

#### ①高等学校の新学習指導要領や大学入試改革を踏まえた先進的なカリキュラムや授業の実施

高等学校の新学習指導要領改訂や大学入試改革に対応し、初年次ゼミや2年次以降の学部ゼミにおける探究型学修のブラッシュアップ、情報入門などの情報教育のブラッシュアップ等を実施します。

## 4. CUC Vision100の方針に基づきアジアを中心とした世界の持続可能な発展に寄与する人材の育成

### <主なアクションプラン>

#### ①異文化コミュニケーション能力の養成

2021年1月に策定した『千葉商科大学国際化ビジョン「世界とつながる」』<sup>iii</sup>実現のため、2024年度の千葉商科大学基盤教育機構のカリキュラム改訂にあわせて、異文化理解や日本の歴史・文化の理解、英語・中国語によるコミュニケーション力の向上に関連した、学部横断的な講座の設置に向けた計画を策定します。

また、2021年度の方針、検討結果、進捗状況に基づき、学内外から情報収集、調査（学生ニーズ、卒業生の声含む）を進め、新規教育プログラム実施に向けた準備を行います。

#### ②交換留学生の増加

交換留学生増加、外国人留学生の受入れ体制を整備し、体制強化のための施策を検討します。具体的には、交換留学に関する協定校見直しのための調査・協議、海外協定校へヒアリング（オンライン会議実施）、及びアジア圏、英語圏の海外協定校と協議及びオンラインプログラムを開催します。また、2023年度の短期受入プログラムの実施に向け、検討を進めます。

#### ③世界に向けた情報発信の強化

現状の千葉商科大学公式 web サイト：英語版の見直し、及び日本語版「国際人育成」カテゴリーの見直しを行います。また、具体的な情報発信として、千葉商科大学附属高校との国際交流イベント等の広報、自然エネルギーの取り組み等を予定しています。

#### ④卒業留学生の組織化とネットワーク強化

卒業した留学生が就職している企業との関係構築をめざし、卒業生ネットワークを構築します。

具体的には、(1)国内在住の留学生ネットワークの構築に向けた交流イベント及び懇親会等の実施、(2)海外在住の留学生ネットワークの構築に向けた、特に中華人民共和国を中心とした海外在住の留学生とのオンライン懇親会等を実施します。

## 5. 産官学によるコンソーシアム等を通じた、地域・社会に貢献できる教育活動の推進

### <主なアクションプラン>

#### ①正課・正課外でのボランティア教育の充実

千葉商科大学地域連携推進センター主催の「地域」を知るための課外プログラムをはじめ、大学コンソーシアム市川<sup>iv</sup>にて学内外を対象としたボランティア教育の実施等、幅広いボランティア教

<sup>ii</sup> 日商簿記検定、税理士試験科目（簿記論・財務諸表論）の指導を無料で行う、千葉商科大学独自の会計教育実践の場。専用の教室を有し、また高い実績を誇る専任教員が常駐していることから、多くの合格者を輩出しており、各種検定合格率は全国平均を

大きく上回っています。

<sup>iii</sup> 千葉商科大学公式 web サイト参照。

(URL:[https://www.cuc.ac.jp/about\\_cuc/cuc\\_plan/index.html](https://www.cuc.ac.jp/about_cuc/cuc_plan/index.html))

<sup>iv</sup> 千葉商科大学公式 web サイト参照。

育を展開します。特に 2022 年度は、ボランティア教育を大学コンソーシアム市川の単位互換に加えるための検討を進めます。

## ②市川との地域つながり力を持った学生の育成

大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォームと連動し、前年度に引き続き大学コンソーシアム市川での特別講義「市川学 A~D」<sup>v</sup>を実施します。

## 6. 「大学院プロジェクト」の完遂と質的拡大

### <主なアクションプラン>

#### ①会計ファイナンス研究科の教育の質的向上

2021 年度に引き続き、新しい会計大学院コアカリキュラムの導入と、求められる各修了生の知見水準の確保策、研究論文指導体制と教育の質保証を念頭に置いたカリキュラム内容の検討を進めるとともに、リカレント教育を視野に入れたオンライン授業を一部導入します。

## II. 学生支援と環境整備領域

### A：超スマート社会に移行していく中で学生、教職員の ICT ツール運用能力の向上

#### 1. ICT ツール利用の促進体制整備

##### <主なアクションプラン>

##### ①ICT 活用支援体制の整備

学生へのマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)Excel 資格等の取得促進を目的として、学生がチューターとなった勉強会を開催するなどの活動体制を整備し、運営を開始します。

(URL : [https://www.cuc.ac.jp/social\\_contribution/collaboration/i\\_consortium/index.html](https://www.cuc.ac.jp/social_contribution/collaboration/i_consortium/index.html))

v 大学コンソーシアム市川に参画する 5 大学の共同開発による授業で、参画校に在籍する学生が履修できる。市川市の歴史や文化など市川市の理解を深めることを目的に、集中授業として開講。他大学教員の授業や市川市内を中心とした現地踏査など、大学コンソーシアム市川ならではの授業内容を展開している。

vi 「Staff Development」の略。教育研究並びに管理運営の諸活動を適切かつ効果的に行うことを目的とし、教職員に必要な知識・技能の習得並びに能力・資質を向上させるための研修や取

### B：1人1人の学生の大学生活に対する満足度向上

#### 1. ダイバーシティの推進

##### <主なアクションプラン>

##### ①ダイバーシティに関する研修の実施

昨年度に引き続き、障がい学生支援をはじめとする学生の多様性に関する SD<sup>vii</sup>を開催し、教職員のダイバーシティに関する知見を深め、学園の活動に反映していくよう努めます。

##### ②多様な学生の支援体制の強化とフォロー体制の構築

2020 年度に発表した「学校法人千葉学園千葉商科大学ダイバーシティ推進宣言<sup>viii</sup>」のもと、ダイバーシティに関する啓発活動を実施します。また、ダイバーシティ推進委員会の下にワーキンググループを編成し、ダイバーシティ推進体制を整備します。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響を見ながら、多様な学生支援に先進的に取り組んでいる他大学の視察を行い、さらなるダイバーシティ推進体制の充実を目指します。

##### ③女子学生に対する支援の充実

2022 年度より女子学生に対する支援として、「オイテル」（無償の女性用生理用品提供設備）を学内 12 か所に試験導入します。

#### 2. 学生が快適に過ごせるキャンパスを、学修と学生生活の面から整備

##### <主なアクションプラン>

##### ①図書館、Co-works Lab<sup>viii</sup>、iSquare<sup>ix</sup>の利用促進

各施設の利用者実人数と満足度調査の結果分

り組み。

vii 千葉商科大学公式 web サイト参照。

(URL : [https://www.cuc.ac.jp/about\\_cuc/activity/diversity/index.html](https://www.cuc.ac.jp/about_cuc/activity/diversity/index.html))

viii 教育棟「The University HUB」の地下 1 階のスペース。オープン PC エリア、ミーティングルーム 7 室、ワークスペースがあり、学生が自由に議論やグループワーク等に利用可能。

ix 「CUC International Square」の通称。学内にいながら、まるで外国のカフェにいるような雰囲気の中で、日常的に英語や異文化に触れることができる施設。



析により、その結果に基づいた施策を立案し、実行します。

千葉商科大学付属図書館では利用促進と満足度の向上を目指し、本来の機能である「グループ学習室」等の再開を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、資料展示・講演会等のイベントを開催します。

iSquare では、2021 年度に引き続き長期休暇中に集中講座を開講し、費用面や時間的な要因で海外プログラムに参加できない学生が、国内にて短期間で集中的に英語教育が受けられる環境の整備を本格化します。

## ②学生生活について学生から意見聴取を行い、フィードバックする体制の整備

従前から実施している学生生活実態調査のフィードバック体制を整備し、学生と教員及び事務局との双方向的なコミュニケーション体制を目指します。

## 3. 学生が活躍できる場を提供し、その活躍を応援する環境の整備

### <主なアクションプラン>

#### ①学内で働ける Student Job 制度の新設と既存制度の見直しと整理

千葉商科大学内で働ける Student Job 制度の新設に向け、現行の SA (Student Assistant) 制度の見直しをはじめとする具体的な制度設計について、他大学等の先行事例をヒアリングするなど情報を集め、2024 年度実施に向けた検討を開始します。

#### ②部活動の応援（活性化）プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響は、活動の縮小に留まらず部員数の減少にも及んでいることから、部活動への参加を促す活動を行い、部活動の活性化を図るとともに、千葉商科大学関係者の部活動への関心度や応援の機運を高めることを目指します。また、部活動の支援について、外部

助成金等の活用の可能性を探ります。

## 4. 学生が成長を実感できる仕組みの構築

### <主なアクションプラン>

#### ①資格取得支援センターの設置

2021 年度に開設した資格取得支援センターを、2022 年 4 月より本格稼働します。本センターは資格取得講座の運営や学生相談等を通じて、千葉商科大学の学生が成長を実感できるような取り組み・サポートを行うことを目的としています。

2022 年度は本センターの活動を通し、学生の資格取得支援を強化するとともに、講座受講者数や合格者数などを指標として、効果検証を継続的に実施し、さらなる活動の拡大を目指します。

#### ②瑞穂会の横展開による、無料講座の開講

瑞穂会と資格取得支援センターの活動を連動させるとともに、基盤教育機構の正課授業に展開するかどうか、学部・学科等再編（カリキュラム検討）と並行して検討します。

## C：愛校心の醸成

### 1. 卒業生ネットワークの構築と、大学からの情報発信や卒業生との交流の強化

#### <主なアクションプラン>

#### ①卒業生と在学生在が交流できる機会を検討

学部ゼミを主体とした OB ゼミ生と在学ゼミ生との交流会を、The University DINING にて開催します。

#### ②卒業生への情報発信の強化

卒業生への情報発信の強化策として、大学情報発信媒体である同窓会情報誌「きずな」を、卒業後 1 年間（3 回）発送していきます。また卒業生向けに、SNS を通した情報発信と登録促進のための企画を実施します。

#### ③ホームカミングデーを開催

卒業後一定期間を経過した卒業生に対して、学

園祭期間中に大学主催のホームカミングデーを開催し、卒業生との交流の強化を図ります。

#### ④卒業生に向けたサービスの創出

卒業生向け講座・ゼミのOB会開催支援・大学の近況報告など、卒業生に対する新たなサービスを展開していきます。

### **Ⅲ. 研究支援と環境整備領域**

#### **A：活動成果の情報発信力の強化と社会への還元**

##### 1. 専用情報サイトの構築による研究の可視化

<主なアクションプラン>

###### ①千葉商科大学公式 web サイト（教員業績ページ）の整備・運用

2021 年度に引き続き、千葉商科大学公式 web サイトの教員業績ページの入力を促進し、各教員の研究内容の可視化を図ります。

##### 2. 学内外における研究活動情報の共有

<主なアクションプラン>

###### ①公開プログラム「国府台学会研究会」の開催

2021 年度に 5 回にわたりオンラインで開催した公開プログラム「国府台学会研究会」を、2022 年度も引き続き開催し、参加者の拡大を目指します。

特に、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を見ながら、対面方式での開催、懇親会等も検討し、研究者の交流を促進します。

#### **B：持続可能な社会づくりに貢献できる研究の創出**

##### 1. SDGs に関連した研究の創出・推進

<主なアクションプラン>

###### ①SDGs に関わる研究・プロジェクトへの助成

2021 年度より、既存の研究所体制の再編成につ

いて検討を進めています。2022 年度も研究所体制の再編成と合わせて、研究・プロジェクトへの助成制度の検討を進めます。

#### **C：社会的・国際的に高い評価を受ける研究の創出**

##### 1. 科学研究費助成事業（科研費）の採択件数増加<主なアクションプラン>

###### ①科研費応募者に対する各種サポート

2021 年度より、科研費採択者・応募者を対象とした研究費等支援制度（研究奨励費、課題挑戦費）を実施しています。2022 年度は本制度の運用を進めるとともに、科研費申請のための支援プログラム、FD<sup>x</sup>・SD、研究会の開催を継続的に行い、採択件数の増加を目指します。

##### 2. 産官学連携プロジェクト受入件数の増加

<主なアクションプラン>

###### ①関連規程の整備による受入体制の構築

研究活動における産官学連携を強化するため、千葉商科大学内規程の整備を進めます。また、公式 web サイト等による情報発信を強化することで、企業・団体等との受託共同研究をはじめとした、産官学連携プロジェクトの受入件数の増加を図ります。

##### 3. 奨学研究寄付金の受入開始

<主なアクションプラン>

###### ①奨学研究寄付金の受入開始

2021 年 1 月に「CUC 研究活動募金」を創設して以来、学長プロジェクトを対象に、寄付金を受け入れてきました。また、2022 年 2 月より研究者個人の研究活動を対象とした「奨学研究寄付金」の受け入れを開始しています。2022 年度から本格的な運用を開始します。

<sup>x</sup> 「Faculty Development」の略。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。その意味するとこ

ろは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。

## **D：時代にあった研究体制・研究支援体制確立**

### **1. 高度研究支援・マネジメント人材の育成**

#### **<主なアクションプラン>**

##### **①専門人材の育成計画の策定・採用**

2021年度に引き続き、研究支援専門人材の育成計画を策定するとともに、職員の各種専門研修への参加や他機関の研究支援部門との交流を通じて、複雑化する研究関連業務に対応できる事務組織の構築を進めます。

### **2. 学内研究制度の活性化**

#### **<主なアクションプラン>**

##### **①海外を含む他機関との学術交流の推進**

海外を含む他機関との学術交流プログラム開催に向け検討を進めるとともに、千葉商科大学丸の内サテライトキャンパスを積極的に活用した研究会、セミナー等の開催を推進します。なお、実施方法は新型コロナウイルス感染症による社会状況に鑑み、オンラインでの開催を想定しています。

## **IV. 入試・キャリア領域**

### **A：23年度入試での志願者数8,000名以上、24年度以降でより一層の増加へ**

#### **1. 代表的な予備校の模試での偏差値の向上**

##### **<主なアクションプラン>**

##### **①高偏差値帯の高校生を対象とした広告媒体の選定と出稿**

高校別資料請求数、出願時のアンケート及び教育学 IR<sup>xi</sup>による入学後のデータ分析等に基づき、広告媒体の見直しを継続します。

##### **②高偏差値帯の高校への訪問営業及び高校内ガイダンスへの参加**

一般選抜（個別試験型、共通テスト型）の総志願者に占める偏差値50以上の割合を50%以上とする

することを目標とし、首都圏の高偏差値帯の高校への訪問営業及び高校内ガイダンスへの参加を促進するとともに、地方マーケットの確立にも取り組みます。

##### **③入学手続きシステムの再構築**

現在実施しているネット出願システムの機能を強化し、入学手続きまでをすべてオンラインで完結させるとともに、合格者が入力したデータをそのまま入学手続きシステムに取り込むことで、再入力等が起こらないようにするなど、入学予定者の利便性向上を目指し、開発を進めます。

## **B：学部が求める学力や目的意識・熱意を持つ受験生を確保するための学校推薦型入試・総合型選抜入試の実施**

### **1. 入試制度の改編**

#### **<主なアクションプラン>**

##### **①付属高校生対象入試制度の見直し**

2021年度に、2025年度（千葉商科大学付属高校の新クラス・コースにて最初に卒業生が出る年度）の千葉商科大学付属高校特別選抜クラスを対象とする、新たな総合型選抜入試を設計しました。2022年度は、特別選抜クラス以外のその他のクラス・コースについて、学習指導要領の改訂によるカリキュラム変更に対応した、新たな入試制度の設計を行います。

##### **②総合型選抜入試制度の見直し**

高大接続型総合型選抜の実施に向け、教育学 IRによる入学後データ等の分析に基づき、出願資格、評定平均値等の出願条件を検討します。

### **2. 留学生募集方針の策定と実行**

#### **<主なアクションプラン>**

##### **①外国人留学生受入方針を策定**

『千葉商科大学国際化ビジョン「世界とつなが

<sup>xi</sup> IR は Institutional Research の略。大学に関する情報の調査及び分析を実施する機能又は部門。大学情報を一元的に収集、分析

することで、計画立案、政策形成、意思決定を円滑に行うことが可能。

る』を踏まえるとともに、外国人留学生特別入試の結果、教学 IR による入学後データ等の分析に基づき、出願資格・募集人員などを見直し、新たなトライアルを行います。

特に 2022 年度は新型コロナウイルス感染症の影響による留学生の動向に合わせ、日本語学校とのリレーション強化を図ります。

## **C：CUC アライアンス企業<sup>xii</sup> ネットワークの更なる発展のため、この先 100 年にわたり社会をリードしていく企業の開拓**

### **1. ミライアンス企業<sup>xiii</sup>の創設**

<主なアクションプラン>

#### **①ミライアンス候補企業への提案訪問と賛同依頼**

2019 年度に決定したミライアンス企業の定義のもとに、候補企業への提案訪問と賛同依頼を行い、企業数累計 60 社を目指します。

#### **②ミライアンス企業への内定取得率**

ミライアンス企業の学内向け周知・プロモーション、学内合同会社説明会及び選考会への誘致を行い、学内合同説明会参加 60 社、ミライアンス企業からの内定取得学生 40 名を目指します。

## **D：外部環境の変化に影響されない千葉商科大学独自の就職支援体制の確立**

### **1. 逆求人マッチング機能を有した千葉商科大学独自の就職支援ポータルサイト「me R AI (みらい)」<sup>xiv</sup>のコンテンツ開発と運営**

<主なアクションプラン>

#### **①逆求人マッチングシステムの充実**

2019 年度から稼働した逆求人マッチング機能を有した千葉商科大学独自の就職支援ポータルサイト「me R AI」の充実のため、新システムの構築を含めた新たなコンテンツの開発とプロモ

ーションを行います。

また企業と学生の活用を促進し、学生登録率 7 割、企業登録数 400 社、オファー獲得率 9 割を目標とします。

## **E：CUC 独自の大社接続モデルの開発**

### **1. キャリアスキルシート「AKINAI」の開発**

<主なアクションプラン>

#### **①「AKINAI」の開発**

新たなキャリアスキルシート「AKINAI」について、運用を開始します。学生及び CUC アライアンス企業に対しプロモーションを行い、学生の入力率 50%、利用アライアンス企業 200 社を目指します。

## **F：入試データと就職データのマッチングを行ない入試制度改革や就職指導で活用し、高大社接続の取り組みを具現化する**

### **1. 学生の就職状況と高校時代の状況(成績や活動実績等)の相関分析**

<主なアクションプラン>

#### **①収集すべき入試・就職データの検討と整備**

教学 IR を活用した分析を行い、学生募集、可否判定、就職支援等の制度設計、効果測定を行います。

## **V. 広報・ブランディング領域**

## **A：高校生の一般選抜(共通テスト型含む)出願数の増加**

### **1. 新しい層の高校生へのリーチ拡大**

<主なアクションプラン>

#### **①高校生向け募集メディアへの継続的出稿**

出願して欲しい高校生に届いているかという視点で各メディアの効果測定を継続し、出稿の可

<sup>xii</sup> 企業と千葉商科大学が連携して、社会に貢献できる人材を送り出すという趣旨に賛同いただき、千葉商科大学学生の採用や育成に積極的な企業のこと(2022年2月4日現在で903社)。

<sup>xiii</sup> この先100年のリーディングカンパニーとしての可能性を有

し、千葉商科大学ならではの学びが活かせる企業。

<sup>xiv</sup> 学生と企業をつなぐオファー型マッチングサイトのこと。(URL: <https://cuc-merai.jp/>)

否を判断する等、募集メディアを見直し続けます。

## 2. ステークホルダー向けのリーチ拡大

<主なアクションプラン>

### ① イベント告知のバリエーション拡大

オープンキャンパス、入学試験、学内イベントなどの告知を拡大することで、高校生との直接の接点を強化します。特に、高偏差値の高校生を重点ターゲットとして広告を展開します。

## B：地域・社会・就職先企業の認知向上

### 1. エリア広報へのトライ

<主なアクションプラン>

#### ① 地域への広報強化

指定エリアの企業に対して千葉商科大学の強みを生かしたアプローチを実践し、検証します。

#### ② 課題解決型の地域・産官学連携事例の広報

課題解決型の地域・産官学連携事例を千葉商科大学公式 web サイトで発信します。

### 2. 出口向け広報へのトライ

<主なアクションプラン>

#### ① ミライアンス企業開拓の広報

キャリア支援センターと連携し、ミライアンス企業の開拓ツールを作成し、広報活動を行います。

## C：インナーのモチベーションアップ

### 1. 学内外のコミュニケーションのハブを目指す

<インナー向けメディアの強化>

<主なアクションプラン>

#### ① OB・OG 向けツールの検討

「学生支援と環境整備領域」の活動と連携し、コミュニケーション創出のフレームワークの提案を行い、OB・OG とのつながりの強化を図ります。

## D：大学ブランドの構築

### 1. ファクトで伝えるコミュニケーションの設計

<主なアクションプラン>

#### ① 千葉商科大学公式 web サイトでの情報発信

千葉商科大学の強みを発信するために、一部の公式 Web サイトを最適なデザインへ変更します。

#### ② IST 戦略の周知

IST 戦略の学内者向け認知アンケート調査のほか、千葉商科大学の SDGs の取り組み状況を更新して広報活動に活用します。

#### ③ ブランド設計

千葉商科大学独自の広報指標を元に広報戦略を実行します。

#### ④ 広告の掲出

看板を中心とした交通広告の継続及び IST 戦略に基づく広告出稿を行います。

#### ⑤ UI<sup>xv</sup>の制定

千葉商科大学創立 100 周年に向けて新たなタグライン、大学ロゴ、マークなどについて、具体的な検討を進めます。

#### ⑥ SDGs への取り組みの周知

オウンドメディア (MIRAI Times<sup>xvi</sup>) を利用し SDGs に関する情報を継続的に発信することで、千葉商科大学の認知度をより一層向上させます。

## E：メディアへの露出と質の高い広報

### 1. 千葉商科大学にとって良いイメージの拡散

<主なアクションプラン>

#### ① メディア (TV) アプローチ強化

メディアアプローチを強化するとともに、自然エネルギー、SDGs を中心とした動画を制作し、認

<sup>xv</sup> University Identity の略。大学独自の特徴や理念を指す。

<sup>xvi</sup> 「社会の未来を育てる」をコンセプトに、持続可能な未来を見据え、さまざまな情報をお届けする千葉商科大学独自のウェブ

メディア。

(URL: [https://www.cuc.ac.jp/om\\_miraitimes/](https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/))

知度向上を図ります。

## **VI. 経営基盤領域**

### **A：財政基盤の強化**

#### **1. 事業活動収支差額比率 8%の実現**

<主なアクションプラン>

##### **①あるべき財務バランスシート、事業活動収支、キャッシュフロー及び財務比率等の数値目標作成**

千葉商科大学創立 100 周年に向け、事業活動収支差額比率 8%を実現するために、2022 年度は以下②～④の施策を実行し、安定的な財政基盤の確立を目指します。

##### **②補助金収入の確保**

2021 年度に引き続き、私立大学等経常費補助の確実な確保に向け、内容・目的を的確に把握するとともに、学生の定員管理等の対応を適切に行います。また、千葉商科大学附属高校の私立学校経常費補助金についても検証し、補助金獲得の最適化を図ります。

##### **③恒常的な寄付金戦略**

2019 年 12 月に創設した「CUC サポーターズ募金」の寄付金額の合計は、2021 年度 2 月末現在で 6,015 千円となりました。2022 年度は応募者の増加を図るとともに、千葉商科大学創立 100 周年に向けた、新たな寄付金戦略、寄付金メニュー等の策定を行います。

##### **④予算制度の抜本的見直し**

2021 年度から開始した新たな予算制度により、適切な予算部署の再編、予算計上ルールの見直し、中期経営計画との関係性の整理を行いました。

2022 年度は、今後 10 年間の財務シミュレートに基づき、更なる資源配分体制の最適化を図ります。

### **B：組織・人事・制度の最適化**

#### **1. 組織の見直しとガバナンスの強化**

<主なアクションプラン>

##### **①学部・学科等の再編及び定員の見直しの検討・計画策定**

2021 年度は、10～15 年先に千葉商科大学が社会に貢献すべき分野について、既存の学部・学科組織の枠組みにとらわれない、全学的な学部・学科等再編議論をスタートしました。特に、教職員対象とした少人数のスモールグループ意見交換会を開催し、学部・学科、教員・職員の垣根を超えた幅広い議論を行いました。2022 年度は若手・中堅の教職員を中心とする「CUC 未来会議」を設置し、2025 年度の改組に向けて、具体的な学部・学科等再編議論を加速させていきます。

##### **②内部統制の強化と適切な情報公開**

文部科学省による学校法人ガバナンスの改革議論を注視し、寄附行為の改定、ガバナンスコードの見直し等、対応策を検討します。

また 2021 年度は、千葉商科大学の特色や強み・ビジョン・取り組み等を、財務情報と非財務情報の観点で整理した「統合報告書」を作成し、公式 web サイトに公開しました。2022 年度も作成を継続するとともに、ステークホルダーへの認知拡大を図ります。

#### **2. 大学専任教員の充実**

<主なアクションプラン>

##### **①大学専任教員の増員と教員配置の見直しによる業務の平準化**

学部・学科等再編議論と連動して、既存教員の異動、兼担及び新規教員採用を含む合理的な教員人事施策について検討し、千葉商科大学の人的資源の有効活用を図ります。

### 3. 人事制度の見直し

#### <主なアクションプラン>

##### ①大学教員の人事評価制度の導入

2021年度より、大学教員人事評価制度を導入し、専任教員の年度末特別支給を対象として実施しました。2022年度は本制度のブラッシュアップを行います。

##### ②教職員へのダイバーシティの推進

「学校法人千葉学園千葉商科大学ダイバーシティ推進宣言」に基づき、障がい者雇用や育児支援など教職員のダイバーシティを目指し、体制構築や施策立案を推進します。

### 4. 業務や組織・制度の最適化・効率化

#### <主なアクションプラン>

##### ①大学 IR の有効活用

2021年度は、学内データの統合が終了し、データクレンジングが完了するとともに、学内でのデータ管理体制が確立しました。2022年度は教学部門での活用を促進するため、職員を対象とする統計学講座、IRシステムの活用支援等を実施し、事務局全体のデータリテラシの向上と、教学 IR データの活用促進を図ります。

##### ②業務のデジタル化・資料のペーパーレス化

2020年度以降、電子稟議(文書発信、予算執行)の導入と、新型コロナウイルス感染症への対応による Microsoft Teams の導入により、業務のデジタル化・資料のペーパーレス化が急速に進みました。2022年度は、これらのツールを最大限活用した業務効率化とコスト削減を行います。

##### ③防災体制の確立

2022年度は、2021年度に策定した BCP(事業継続計画)を学内に公開共有して理解を促進するとともに、BCPに基づいた防災訓練の実施を計画し

ます。また、学長プロジェクトや国府台コンソーシアム<sup>xvii</sup>等と連携し、災害時における協定事項の遂行等、地域社会の防災・減災の体制について引き続き検討を進めます。

## **C：キャンパス整備と学園の新たな事業の創出**

### 1. キャンパスグランドデザイン計画の策定

#### <主なアクションプラン>

##### ①将来を見据えたキャンパスグランドデザイン計画の策定

2021年度に、大学・高校の教職員から構成される「キャンパス・校舎整備委員会」を設置することが決定しました。本委員会にて、千葉商科大学市川キャンパスの新号館の建設、遊休地の活用及び既存施設・設備の有効活用を含む、千葉商科大学創立100周年に向けたキャンパス整備計画「キャンパスグランドデザイン」の策定を進めます。

##### ②既存施設の有効活用

①のキャンパスグランドデザインの策定と連動し、既存施設の整備計画を見直し、建物の超長期利用を視野に入れた整備計画とするとともに、既存設備の稼働状況を調査し、アフターコロナを前提とした有効活用策を検討します。

## **VII. 付属高校領域**

### **A：教学体制の再構築**

#### 1. 中期教育計画

#### <主なアクションプラン>

##### ①教育目標の達成状況の多面的把握

現在、授業評価及び学校評価を実施し、その結果を千葉商科大学付属高校公式 web サイトにて公開するとともに教員研修を実施し、授業改善等に活用しています。2022年度も継続して実施するとともに、ルーブリック評価、それによる課題発見とその解決の流れについてのシステム化を検

<sup>xvii</sup> 市川市国府台地区及び同地区近隣に所在する教育機関ならび

に医療機関が連携し、相互の発展と地域の活性化に資することを目的として、2017年12月に設立。

討します。

## 2. 専任教員の充実

### <主なアクションプラン>

#### ①付属高校専任教員の採用計画の立案

2021 年度に、2022 年度から始まる新カリキュラムを想定した、新たな千葉商科大学付属高校教員採用計画を策定しました。本採用計画に基づき教員採用を行うとともに、授業の最小開講人数の基準によるコマ数の調整を行い、教員の負担軽減を行います。

## 3. 人事制度及び働き方の見直しとガバナンスの強化

### <主なアクションプラン>

#### ①研修制度の充実

初任者研修・ミドル研修・マネジメント研修等の階層別の研修について、研修体系を具体化するとともに校内研修の充実を図り、学校全体の教育力の向上を図ります。

#### ②部活動の拡充と外部コーチ等の活用の検討

2021 年度現在、弓道部と硬式野球部で外部コーチを導入しています。2022 年度は特に競技上の危険度が高いクラブを中心に、複数のクラブでの外部コーチ導入を検討します。

## 4. クラス制度・コース制度の整備と教育の質的向上

### <主なアクションプラン>

#### ①ICT 教育の充実及び業務のデジタル化推進・資料のペーパーレス化

2022 年度も引き続き、電子黒板、VOD などの ICT 環境の有効活用を進めるとともに、ハイブリッド対応を含むオンライン授業のさらなる進展を図ります。また、会議や授業での配布プリントなどのペーパーレス化を推進します。

## 5. 入試制度改革

### <主なアクションプラン>

#### ①付属高校の入試制度改革による、志願者の増加

2021 年度からの千葉県立高校の入試改革への対応として、一部入試制度を改革し、多くの志願者を集めることができたものの、入学者が入学定員を大幅に超過している状況です。今年度は入試制度のさらなる見直し、特に筆記試験の見直しを進め、入学者の適正化を図ります。

## B：財政基盤の強化

### 1. 付属高校創立 75 周年に向け、あるべき財務バランスシート及び財務比率の数値目標作成

#### <主なアクションプラン>

#### ①恒常的な寄付金戦略

2020 年度より、千葉商科大学付属高校新校舎建設に向けた寄付金募集を開始しています。また、創立 75 周年に向けた寄付金、使用目的を定めた寄付金の募集などを創設し、より多くの方にご賛同いただけるような取り組みを検討します。

#### ②新たな土曜講座の開設

2022 年度に現行の土曜授業及び特進クラスの 0 時限目授業を廃止し、新たな土曜講座及び放課後学習支援を開設します。このプログラムはラーニングシップ・ソレイユ (LSS) という名称で、原則平日の 15:30~20:00 と土曜日の 9:00~18:00 に開講され、常駐の講師から指導を受ける「質問型個別指導」のスタイルで実施します。

また、導入目的は、「自ら進んで学習へ向かう姿勢を養うこと」、「授業で扱った内容の定着と大学進学に向けて着実な実力を養成すること」の 2 点とし、1 年生全員と 2, 3 年生の希望者を対象生徒としました。なお、本格導入に先駆けて、2022 年 2 月から、1, 2 年生の希望者を対象に先行導入をしています。



### ③奨学費制度・特待生制度全体の見直し

新学習指導要領の改訂による新クラス・コース導入に伴い、2022年度から複数あった奨学費制度を「特待生奨学支援金制度」に一本化し、支給金額の増額、支給期間の変更等による新奨学費制度がスタートします。今年度は本制度を運用し、生徒支援の拡大を図ります。

## C：キャンパス整備と新たな事業の検討

### 1. キャンパスグランドデザイン計画の策定

<主なアクションプラン>

#### ①高校教育環境施設の充実と高度化

2022年度の千葉商科大学附属高校新校舎第2期工事の完了に向け、教育環境の見直しを行います。第2期校舎には、一般教室10室と既存の管理棟に設置されている職員室や事務室、会議室などが新設されます。これにより、教室不足問題が解消されます。また、職員室と事務室が同一フロアに設置され、これまで以上に附属高校教職員の連携が図り易い環境となります。

## VIII. 高大連携領域

### A：高大連携から高大一貫教育へ

#### 1. 高大一貫教育プログラム設置についてのカリキュラム等の検討

<主なアクションプラン>

##### ①金融リテラシー教育

金融リテラシー高大一貫教育プログラムの作成に向け、千葉商科大学附属高校、千葉商科大学の教職員から構成されるプロジェクト会議にて、2022年度から始まる千葉商科大学附属高校の新カリキュラムにおいて実現することを目指し、教育プログラムを開発します。

##### ②既存の高大連携事業の活用による3言語＋SDGs教育の充実

千葉商科大学の「教育・研究・社会連携領域」と連携した公認会計士教育プログラムや、瑞穂会

との連携による千葉商科大学附属高校生への資格取得支援、正課授業となった「IT道場」（特別講義）に係る千葉商科大学附属高校との連携を継続します。

また、総合探究の授業を活用した高校・大学のSDGs教育についても継続して実施します。

## B：附属高校・大学でのCUC教育を受けた実践的人材で、CUCへの愛校心溢れる人材の育成

### 1. 入試制度の改編

<主なアクションプラン>

#### ①高大接続入試制度の導入、附属高校生対象入試制度の全面見直し

千葉商科大学附属高校の新クラス・コース導入に伴い、特進選抜クラスにおいて、一定条件を満たす生徒は千葉商科大学への合格を保証する仕組みが設けられており、高大接続入試制度導入に向けた準備を進めます。

## C：教育の質を保証する高校・大学へ

### 1. 大学と附属高校との効果的接続を視野に入れ、教育連携や相互交流の発展

#### ①アクティブラーニング及び部活動連携の拡大

新型コロナウイルス感染症により限定的な実施となった千葉県内のプロスポーツ4球団等を活用したアクティブラーニング（千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツのマッチデー等）について、千葉商科大学の「教育・研究・社会連携領域」と連動し実施します。

部活動においては、高大連携により外部指導者を導入しているチアダンス部の合同練習や相互のイベント参加などを実施します。また、2020年度から合同練習を実施している卓球部に続き、2021年度からは硬式野球部が合同練習を開始しました。2022年度も引き続き部活動等の連携や支援体制の拡充についての検討を進めます。

#### ②施設設備、健康サポートの連携

「経営基盤領域」で策定するキャンパスプラン

ドデザインと連動し、稲越校舎及び秋山グラウンドの活用をはじめとする、千葉商科大学と千葉商科大学附属高校の施設設備の共同利用についての議論を進めます。

## IX. 施設・設備計画

### ①図書館外壁改修工事

建物の保全及び学生の安全を考慮し、千葉商科大学附属図書館外壁の改修工事を実施しています。2021年度に先行工事が完了し、2022年度からの本格的な改修工事にて工事完了予定の計画です。

### ②施設・設備の維持管理及び修繕整備

千葉商科大学市川キャンパスの各号館等について、安全性の確保及び建物の超長期利用を見据え、維持管理及び修繕を適切に行います。

### ③附属高校の新校舎建設

千葉商科大学附属高校は、生徒、地域、将来構想への「つながり」を持つ次世代校舎をコンセプトに、2023年1月の供用開始に向けて最終の第二期工事を進めているところです（第一期工事は2021年夏に完了し、秋から一部の新校舎を供用開始しました）。

本校舎はZEB<sup>xviii</sup>を目指した建物で、校舎のエネルギー消費を基準エネルギー消費量に比べて5割以上削減した「Zeb Ready」を達成するZEBハイスクールとなります。

## 【千葉商科大学附属高校 新校舎(第1期)】



千葉商科大学附属高校 新校舎外観



千葉商科大学附属高校 新校舎内部(2階)



千葉商科大学附属高校 新校舎内部(図書室)

xviii 「Net Zero Energy Building」の略称で、快適な室内環境を

実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のこと。